

おわりに

現在、九州大学では、平成 17 年秋の新キャンパスへの第 1 期移転を 1 年余りに控え、各種の施設整備や移転準備が急ピッチで進められている。新キャンパスの計画は「九州大学 新キャンパス・マスタープラン 2001」および各地区の「地区基本設計」にその基礎を置いているが、新キャンパス全体にわたる様々な機能の確保に関しては、敷地全体を見渡した観点からマスタープランを具体化していくことが求められていた。

新キャンパス計画専門委員会では、このような要請に応え、「パブリックスペース・デザイン」、「交通」、「水循環系の保全」、「自然環境の保全（保全緑地の維持管理）」の各分野を対象に、テーマ別の整備計画の作成に着手し、この度「水循環系の保全」に関する整備計画をとりまとめた。水循環系保全整備計画は、地域水循環ワーキンググループでの審議を経て作成したものであるが、実質的な検討は地域水循環ワーキンググループのもとに、関係ワーキンググループおよび大学事務局の代表委員で構成される整備計画検討部会を設けて実施した。

計画作成期間は 1 年余りに及んだが、その間には、農場の水利用に関する農場計画ワーキンググループでの審議や、再生水利用や防災調整池計画等に関する関係行政機関との協議、整備計画の実現性に関する施設部等の大学事務局との調整など、多角的な側面から様々な検討を加えている。

今後は、この水循環系保全整備計画を移転事業の中で着実に実施していくことが必要であるが、加えて、水循環系をとりまく諸問題は、学生・教職員の方々の生活や教育・研究スタイルや、周辺地域の土地利用・水利用などに大きく影響を受けることから、計画の見直しや修正を含めて、これらの変化に柔軟に対応していく姿勢が重要であると認識している。引き続き、関係各位のご理解とご協力をお願いしたい。